



「元気なまち 橋本」を目指して

平成27年度に財政の健全化を図るための計画を策定し、着実に実行してきた効果が少しずつ表れてきていますが、厳しい財政状況に変わりありません。

このような中、公共施設の老朽化への対応や社会保障に関連する経費の増加など、本市を取り巻く財政的な課題は多く、いずれも重要で差し迫っています。

とりわけ、築30年以上の建物や道路・橋りょう・上下水道などのインフラ資産が、いつせいに改修・更新時期を迎えることから、多額の費用が必要になると見込まれます。

このため、公共施設の数量の最適化や長寿命化、また民間活力の利用により維持管理費用の抑制に努めながら、公共施設等総合管理計画を着実に進めます。



▲国の予算を活用し大規模改修を行なった小学校

元気なまちづくり 1 将来に向け持続可能なまちを創ります

橋本市長の平木哲朗でございます。2期目の市政に臨むにあたり、あらためて強い使命感をもって、市民の皆さまの信託に誠心誠意お応えし、精一杯の努力を重ねてまいりますよう、決意を新たにしているところであります。

これからの市政運営につきましましては、「元気なまちづくり」の視点を立ち、「住んでよかった」「住みたくなる」が実感できるように6つの「元気なまちづくりプラン」を展開していきたいと考えています。

また、収入面では、ふるさと納税や市税収納率の向上などにより、自主財源を確保することはもとより、国や県の動向を注視し、情報を収集して、事業を進めていくための財源を確保できるよう努めます。

さらに、人口減少に伴い職員数の適正化も図っていく必要があるため、職員を効率的・効果的に配置し、事業や働き方を見直すことにより、組織をできるだけコンパクトにするよう取り組みます。



今月のかけ橋人 みんな自分らしく かける 橋本人



GEはしもとサピユイエ
松本 祐代 さん (紀見ヶ丘)

学生時代、憲法で保障されているはずの男女平等が、現実の社会通念ではそうではないことに違和感を持っていました。就職、結婚、子育て、人生のどのステージでもその思いはあって、それを原動力に学び、女性だけではなく男性も男らしさという神話に苦しめられていることも知りました。

性別に縛られずに、誰もが、一人の人間としてその人らしく輝ける社会こそ人権が尊重される社会だといえます。そんな社会を目指し、女性支援や家庭教育支援の場で「学び、寄り添い、伝える」活動が続けていきたいと思っています。

目次

- 3 特集 元気なまちづくりプラン
- 6 特集 協働で元気なまちへ
- 10 特集 介護保険料が変わります
- 12 特集 母子保健推進員
- 14 情報ワイド
 - ▶大雨による災害に備えましょう
 - ▶市営住宅入居者募集 など
- 19 情報ひろば
- 26 タウン情報
- 27 子育てぱーく
- 28 本のひろば
- 29 健康カレンダー
- 30 フォトピックス

今月の表紙



高野口こども園で、母子保健推進員さんが子どもたちを見守る様子。